

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市市民ミュージアム	評価対象年度	平成30年度
事業者名	アクティオ・東急コミュニティー共同事業体 代表者 アクティオ株式会社 代表取締役社長 淡野 文孝 東京都目黒区東山1-5-4 KDX中目黒ビル6階 構成員 株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長 雑賀 克英 東京都世田谷区用賀4-10-1	評価者	市民文化振興室長
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	所管課	市民文化局市民文化振興室

2. 事業実績

○前年と同様の取組 ●新規または前年から変更した取組

利用実績	【総利用者数】	平成30年度	平成29年度	平成28年度
	(1) 常設展示	302,999人	282,211人	181,910人
	(2) 企画展示 有料	127,837人	123,249人	100,981人
	無料	38,635人	49,219人	11,403人
	(3) 映像ホール 有料	89,243人	66,479人	39,166人
	無料	7,482人	8,909人	7,129人
	(4) ミニホール	5,054人	4,604人	3,429人
	(5) 館内イベント・講座等	876人	1,255人	810人
	(6) ミュージアムライブラリー(映像)	14,593人	12,971人	6,248人
	(7) ミュージアムライブラリー(図書)	2,802人	3,597人	3,005人
(8) ミュージアムライブラリー(閲覧)	10,748人	7,693人	5,669人	
(9) 研修室等利用者	32人	27人	103人	
(10) ミュージアムギャラリー1	1,038人	1,062人	665人	
(11) ミュージアムギャラリー2	3,179人	2,083人	2,156人	
(12) 館外展示・出張プログラム等	44人	0人	63人	
		1,436人	1,063人	1,083人
【企画展示】	平成30年度	平成29年度	平成28年度	
	21事業 133,315人	18事業 115,698人	17事業 50,569人	
	企画展 17事業 127,878人	15事業 110,100人	13事業 41,694人	
	他団体の展示等 4事業 5,437人	3事業 5,598人	4事業 8,875人	
【かわさき市美術展の応募数】	平成30年度	平成29年度	平成28年度	
	6部門 231点	6部門 266点	6部門 192点	
【映画上映】	平成30年度	平成29年度	平成28年度	
	16事業 9,243人	15事業 11,136人	17事業 8,481人	
	上映数・作品数 173回 83作品	174回 96作品	164回 107作品	
【教育普及事業】	平成29年度	平成28年度		
	81講座 277回 11,320人	76講座 254回 10,143人		
	社会科教育推進事業 85校(9,390人)	88校	81校	
ボランティア登録者数	49名	43名	73名	
収支実績	(1) 収入	514,937千円 (前年: 486,569千円)		
	(2) 支出	490,237千円 (前年: 474,525千円)		
	(3) 収支差額	24,700千円 (前年: 12,044千円)		
サービス向上の取組	【地域との連携】	○等々力緑地で開催される中原区民祭当日の来館者の企画展観覧料を無料とし、緑地に位置する施設の一員として地域と連携し、美術の観覧を通じた多くの区民の交流を目的とした取組を行った。 ●7月に武蔵小杉駅近くで開催された「こすぎ盆踊り大会2018」にて、来場者がうちわを持ち歩くことにより告知効果を得ることを目的に、「かこさとしのひみつ展」の告知うちわ約4,000枚を配布した。		
	【夏休み期間に合わせた開館延長】	●昨年度好評だった、夏休み期間中の土曜日に2時間の開館延長(計5日間、閉館17時を19時に変更)を行った。また、平成30年度から新たな取組として開館延長時間に、イベントを実施し、子ども連れなど計147名が参加。前年度の開館延長期間より1,423人(1日平均285人)増となった。		
	【ライブビューイングの開催】	●企画展開連イベントのトークショーへの応募者数多数に伴い、会場で鑑賞できなかった方にも参加してもらえるように、逍遙展示空間でライブビューイングを実施した。		
	【その他】	●子ども連れの来館者が増えたことから、3階ライブラリーに親子で一緒に絵本を読める「こどもコーナー」を新設し、絵本の書架を配置。子ども連れにも楽しんでもらえるような取組を行った。 ●1階の授乳室が使用中の場合に男性がおむつ替えするスペースがないことを受け3階幼児室を改装し、授乳室を設置した。		

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度・事業成果	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	4 (H29 4)	8
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	8	4 (H29 4)	6.4
		当初の事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) <b>【利用者満足度】</b> ○窓口やご意見箱、企画展・常設展アンケートの実施により、利用者の満足度やニーズ、意見・要望などを把握している。窓口やご意見箱に寄せられた意見に対しては、館長及び部門長で対応を協議・検討し、企画展・常設展アンケートに関しては職員全員に回覧するとともに、必要に応じて朝礼で報告するなどして情報共有されている。また、寄せられた要望に対しては、下記のとおり対応可能なものは速やかに改善し、高い利用者満足度を獲得できるよう努めている。(対応具体例:1階授乳室が使用中の場合に、男性がおむつを替えられるよう3階にも授乳室設置、イベントへの応募者多数の場合のライブビューイング設置、ライブラリーに子どもコーナーを設置等) ○企画展アンケート(6,162件)では、各企画展の「大変満足」「満足」の合計が平均で92.2%、常設展アンケートでは、「全体的な満足度」の項目で95%、「解説シート」の項目で87%、「体験コーナー」の項目で83%と、いずれも概ね高水準を得ている。今後の利用者満足度を向上させるため、利用者ニーズを業務に反映する継続的な改善とサービス向上の取組が必要である。中でも「かこさとしのひみつ展」は2,635件のアンケート回答があり、うち「大変満足」「満足」の割合が97.4%であり、特に満足度が高かった。					
<b>【事業成果】</b> ○年間総利用者数は302,999人となり、前年の約21,000人増となった。開館(昭和63年11月)翌年度の311,576人に次ぐ利用者数であったとともに、企画展の入館者数(127,878(有料・無料含む))は開館以降の2年連続最高数を更新している(前年度は110,110人)。特に、夏休み期間中、「たるまちゃん」シリーズで知られる絵本作家・かこさとしの生い立ち、仕事、童話の世界を紹介し、川崎でのセツメント活動などこれまでの創作の秘密に迫った「かこさとしのひみつ展」が好評を得た。また、同時期に「時習学校と文山先生－川崎の私立中学校－」、「川崎セツメント展－地域に根差した社会事業－」といった、川崎の地域に根差した展覧会も開催。ミュージシャン SHISHAMOの初の等々力陸上競技場でのコンサートに合わせたSHISHAMO展などの指定管理者ならではの時宜を得た企画や、他にはない初の取組、効果的な営業・広報により集客した点が評価できる。 ○企画展の成果に牽引され総合的に見ると事業実績は良好だが、相対的に見ると博物館展示での実績に向上の余地がある。博物館と美術館の複合施設として、相互にバランスがとれた事業成果となることが望ましい。					
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	4 (H29 4)	6.4
		支出に見合う効果は得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	4	4 (H29 4)	3.2
		収入増加のための具体的な取組が為されているか			
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	4	3 (H29 3)	2.4
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
(評価の理由) <b>【効率的・効果的な支出】</b> ○グッズの売り上げが予算より上回ったことにより仕入れが増えたため、ミュージアムショップ事業費支出が予算比で34,460千円の増となったが、ミュージアムショップ収入は予算比で45,110千円増となり、総合的に見ると支出に見合う観覧料・ショップ収入を得た点が評価できる。 ○企画展事業費の収入は前年度比で7,056千円の減だが、ミュージアムショップ事業費収入が前年度比で37,495千円増となり、企画展のグッズ売上の好調により、全体の収入決算額が前年度比28,268千円増加した。 ○川崎記者クラブへの報道投込による新聞掲載や市内小・中学校へのチラシの配布だけではなく、市政だより、市内広報掲示板・広報コーナー、市ホームページ、かわさきイベントアプリへの掲載等、本市が持つ広報媒体を積極的に活用するとともに、公式ホームページ及びブログの更新や、ツイッターとフェイスブック、インスタグラムなど多様な媒体を活用し、かつ経費がかからないながらも高い効果が見込める広報に努めた。 ○設備等の不具合事項を修繕計画表にて洗い出し、市との定例会議等で協議・検討したうえで、消防設備や空調設備等、市民利用に影響が大きい案件から優先的に修繕を実施することで、修繕費の効率的な執行に努めた。 ●積極的な働きかけにより、新聞に掲載された件数が前年の142件から206件となり、64件増加した。 ●7月に武蔵小杉駅近くで開催された「こすぎ盆踊り大会2018」にて、来場者がうちわを持ち歩くことにより告知効果を得ることを目的に、「かこさとしのひみつ展」の告知うちわ約4,000枚を配布した。					
<b>【収入の確保】</b> ●「かこさとしのひみつ展」の高い集客力により、企画展全体の観覧料収入が予算比で7,662千円の増となった。 ○ミュージアムショップでは、企画展や映画上映に関連した書籍や雑貨、障害者福祉施設の手作り雑貨、「かわさき名産品」や地元企業の製品、フロンターレグッズなど、館の企画と連動した商品や川崎ゆかりの商品を取り揃えている。特に「かこさとしのひみつ展」「さいとう・たかをゴルゴ13展」のグッズ売上が好調で、58,110千円を売上げ、予算比45,110千円増となった。					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	指定管理業務や自主事業が仕様書や事業計画等に基づいて適切に提供されたか	12	4 (H29 4)	9.6
		基本理念等に基づき、適切なサービスが提供されたか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		新規及びリピーター確保に向けた付加サービスの取組が為されているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	3 (H29 3)	3.6
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4 (H29 4)	4.8
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	(評価の理由)				
<p><b>【適切なサービスの提供】</b></p> <p>○常設展示の見学・解説などを行う「社会科教育推進事業」では、小学校4年生の学習単元「昔のくらしと町づくり」の一助とするために、指定管理者が参加希望校との日程調整を綿密に行い、市内85校を受け入れた。</p> <p>○夏休み期間中、「だるまちゃん」シリーズで知られる絵本作家・かこさとしの生い立ち、仕事、童話にの世界を紹介し、川崎でのセツルメント活動などこれまでの創作の秘密に迫った「かこさとしのひみつ展」が好評を得た。また、同時期に「時習学校と文山先生—川崎発の私立中学校—」、「川崎セツルメント展—地域に根差した社会事業—」をといった、川崎の地域に根差した展覧会も開催。ミュージシャン SHISHAMOの初の等々力陸上競技場でのコンサートに合わせたSHISHAMO展などの指定管理者ならではの時宜を得た企画や、他にはない初の取組、効果的な営業・広報により集客した点が評価できる。</p> <p>○新聞・雑誌・市政だよりへの掲載、公共機関・学校等へのパンフレットの配布、屋内外への看板設置、交通広告やホームページ・ブログ等、多様な媒体を活用した広報を展開するとともに、SNSにおいては、ツイッターから420回、フェイスブックから168回、インスタグラムから87回の情報発信を行い、年間フォロワー数はツイッターが573名の増、フェイスブックが269名の増、インスタグラムでは280名の純増となった。</p> <p>●昨年度好評だった、夏休み期間中の土曜日に2時間の開館延長(計5日間、閉館17時を19時に変更)を行った。また、平成30年度から新たな取組として開館延長時間に、イベントを実施し、子ども連れなど計147名が参加。前年度の開館延長期間より1,423人(1日平均285人)増となった。</p> <p>●7月に武蔵小杉駅近くで開催された「こすぎ盆踊り大会2018」にて、来場者がうちわを持ち歩くことにより告知効果を得ることを目的に、「かこさとしのひみつ展」の告知うちわ約4,000枚を配布した。SNSやHP等による発信の他、夏休み前の報道投込により14件の新聞掲載があり、全国記事の社会面にも掲載された。</p> <p>●新たな取組として平成31年2月から、常設展示室に年中行事に関わるミニ展示を、月替わりで実施することとし、収蔵品を活用し、雛人形や雛飾りなどを時期に合った展示を実施した。</p> <p>●ライブラリーでは、「”待ち”のライブラリーから、プレゼンするライブラリー」をコンセプトに掲げ、新たに企画展関連図書コーナー、学芸員のおすすめ図書コーナー、おすすめビデオコーナーを配置し、企画展や常設展に連動した図書の紹介を行うなど活性化を図ったことにより、図書閲覧人数が3,055人増加した。(平成30年度:10,748人 平成29年度:7,693人)</p> <p>●子ども連れの来館者が増えたことから、3階ライブラリーに親子で一緒に絵本を読める「こどもコーナー」を新設し、絵本の書架を配置。子ども連れにも楽しんでもらえるような取組を行った。</p> <p>●「かこさとしのひみつ展」準備中にかこさとし先生が逝去されたことを受け、急遽出版社と協力し「かこさとしを偲ぶ会」を映像ホールで開催(参加者:244人)。当日は、出版社から寄贈を受けた絵本の展示を行い、終了後も企画展会期中はライブラリーに特設コーナーを設けるなど、多くの方がかこさとし先生の作品を閲覧できるよう工夫した。</p> <p><b>【業務改善によるサービス向上】</b></p> <p>●「かこさとしのひみつ展」の関連イベント「かこさとし幻灯上映会」では、応募者が多く大変好評だった反面、会場の座席数の関係により定員数に限りがあったため応募者全員が参加できなかったことを受け、「竹宮恵子展」の関連イベント「竹宮恵子トークショー」では、追遠展示空間でライブビューイングを実施することにより、より多くの方が参加できる取組を行った。</p> <p>●1階の授乳室が使用中の場合に男性がおむつ替えするスペースがないことを受け3階幼児室を改装し、授乳室を設置した。</p> <p><b>【利用者の意見・要望への対応】</b></p> <p>○窓口、ご意見箱(74件)、常設展アンケート(206件)、企画展アンケート(6,162件)の実施により、利用者の満足度やニーズ、意見・要望などを把握している。窓口やご意見箱に寄せられた意見に対しては、館長及び部門長で対応を協議・検討し、常設展・企画展アンケートに関しては職員全員で情報共有するとともに、必要に応じて朝礼で報告するなどしている。</p> <p>●1階の授乳室が使用中の場合に男性がおむつ替えするスペースがないという意見を受け3階幼児室を改装し、授乳室を設置した。</p> <p>●「ビッグコミック」展関連イベントの「新春超ビッグ対談(さいとうたかを・ちばてつや対談)」にて、イベント当選者からの要望を受け、聴覚障害のお客様向けに手話通訳を配置し、障害がある方でも楽しめる取組を行った。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	6	3 (H29 3)	3.6
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか	2	3 (H29 3)	1.2
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか			
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等) 緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的な情報交換等を行っているか	4	3 (H29 3)	2.4
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか			
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	4	3 (H29 2)	2.4
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか			
	(評価の理由)				
	<p><b>【適正な人員配置】</b> ○館長の配置に加え、施設規模の大きさに鑑み、館長をフォローする形で公共施設の館長経験のある者を統括館長として配置した。 ○学芸員の退職が多く、経験年数が浅いスタッフもあり、労働条件や労働環境の整備などに努め、安定的な運営につながるよう、効果的な組織体制の維持に期待する。</p> <p><b>【連絡・連携体制】</b> ○所管課との定例会議を月1回実施し、事業の実施状況や運営上の課題等に関する情報共有及び各種調整を行うなど、より良い施設運営に向けた連絡・連携体制が十分に図られている。</p> <p><b>【担当者のスキルアップ】</b> ○運営スタッフのホスピタリティ向上を図るため、入社時の接遇マナー研修や、企画展ごとに学芸員の解説による知識取得研修を実施した。学芸スタッフが外部研修会に参加して知識向上を図ったほか、部門長以上は、ハラスメント対策の講義に参加した。</p> <p><b>【安全・安心への取組】</b> ○防災マニュアルを改定し、緊急連絡先の見直しを実施するとともに、防災・避難誘導訓練及びAED講習を2回ずつ実施し、災害発生時に適切に対応できる体制を整えている。</p> <p><b>【コンプライアンス】</b> ●昨年度の事象を踏まえ、今年度は法令を遵守し、適正な管理・運営体制がなされている。</p> <p><b>【環境負荷の軽減】</b> ○3階廊下とミュージアムショップの照明LED化工事、バックヤードや職員専用の階段等のこまめな消灯、平日のエスカレーターの停止等、消費電力の低減と環境負荷の低減を図るとともに、PPCにはエコ紙を採用し消耗品の調達はエコ商品を優先した。</p>				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	18	4 (H29 3)	14.4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	6	3 (H29 3)	3.6
	収蔵品管理	収蔵品は仕様書等に基づき、適切に保存・管理されているか			
		(評価の理由)			
	<p><b>【施設・設備の保守管理】</b> ○施設設備の老朽化が著しい中で、保守点検に基づく施設等の不具合事項を修繕計画表にて洗い出し、市との定例会議で協議・検討したうえで、不具合箇所の応急処置を速やかに行うとともに、市民利用に影響が大きく優先順位の高いものから施設等の修繕を実施している。 ●開館から30年を経過し経年劣化により館全体で頻発する雨漏りへの対応、及び屋根裏に出入りするハトの巣・糞の清掃、並びに他予算の執行削減分で館内の美化向上のため壁紙を張替えるなど、日頃から多くの課題を抱えている施設・設備の維持管理を徹底して行い、利用者の安全、快適性を確保している。 ●収蔵庫の酸性濃度を下げため、仕様書上の業務であるフィルター交換(1回/年)を実施しても酸性濃度の数値に改善が見られなかったため、仕様書上の業務と同等の金額で、空気清浄機を収蔵庫に2台設置した。酸性濃度を測定の結果、酸性濃度は正常値に改善され、仕様以上の効果が得られた。</p> <p><b>【清掃業務】</b> ○日常清掃、定期清掃により清潔な美観と快適な環境を維持している。</p> <p><b>【警備業務】</b> ○常駐警備(24時間×1ポスト、日勤×1ポスト)、機械警備、巡回警備を適切に実施し、事件・事故・犯罪等を未然に防止できている。</p> <p><b>【収蔵品管理】</b> ○適正な温湿度管理を実施するとともに、週に1度収蔵庫内のロガーのデータを確認している。保管資料の燻蒸や、毎月の環境測定にて、害虫・浮遊菌・酸性値等をモニタリングしている。 ●収蔵庫の酸性濃度を下げため、仕様書上の業務であるフィルター交換(1回/年)を実施しても酸性濃度の数値に改善が見られなかったため、仕様書上の業務と同等の金額で、空気清浄機を収蔵庫に2台設置した。酸性濃度を測定の結果、酸性濃度は正常値に改善され、仕様以上の効果が得られた。</p>				

#### 4. その他加点

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
その他加点	市の政策課題への取組	例) 第三者へ一部の業務委託を行う際、市内中小企業者の受注機会の確保・拡大 地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力 市制100周年に向けた取組 障害者の法定雇用率を越える雇用 など	5	3 (H29 3)	3
	(評価の理由)	<p>○清掃業務、警備業務などの施設管理業務において市内中小企業を活用している。</p> <p>○障害者、高齢者、子どもや子ども連れの方など、すべての人が身近に文化芸術に触れ、参加できる14件のバリアフリープログラムを実施。「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」では、視覚に障害の有無に関わらず、14名が参加し、作品の色やかたち・大きさ・感じたことや印象等を自由に語り合い、参加者同士が新しい美術の楽しみを発見することを目的として開催するなど、本市が取り組むかわさきパラマウントに資する取組とすることができた。</p> <p>●川崎市シニアプロモーション推進室や音楽のまち推進の取組との連携・調整を行い、川崎市出身のミュージシャンSHISHAMOの初の等々力陸上競技場でのコンサート開催(台風により中止)に合わせたSHISHAMO展を開催し、川崎市出身のSHISHAMOの周知に取り組んだ。</p>			

#### 5. 総合評価

評価点合計	76.2	評価ランク	B
	(H29 71.8)		(H29 B)

#### 6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>川崎市市民ミュージアムは、「考古、歴史、民俗、美術、映像等に関する資料及び作品について収集、展示、調査研究等を行うこと等により、市民の観覧、学習、研究等に資するとともに市民相互の交流を推進し、もって市民の教育、学術及び文化の発展に寄与する」ことを目的として設置した博物館・美術館の複合施設である。</p> <p>本施設は、昭和63年11月に開館し、平成29年度に市の直営管理から施設管理・学芸業務ともに指定管理者制度を導入した。</p> <p>指定管理者を募集するにあたり、本市が仕様書で「指定管理者に求めること」として、①「民間事業者としての柔軟な発想及び独創性、さらにはこれまで蓄積してきた研究成果を引き継ぎ、サービスの向上や魅力ある企画の実現など、事業の充実と新たな来館者の創出に向けて創意工夫するとともに効率的な運営に努めること」、②「指定管理者には優れたマネジメント力、博物館・美術館の専門分野に関する豊かな知識と高度の専門性の継続と蓄積」、③「市文化施設の管理運営にあたる者として、特定の利益や価値に左右されない、高い公益性と信頼性」の3点を示していることから、全体評価に当たってはこの3点の視点に基づき評価する。</p> <p>①年間総利用者数は302,999人となり、30万人を突破し、昨年度より約21,000人増となった。開館翌年度の311,576人に次ぐ実績であったとともに、企画展の総入館者数が開館以降の最高数となったことは、指定管理者ならではの時宜を得た企画や、他にはない初の取組、効果的な営業・広報の取組が、結果として集客につながったものであると大いに評価できる。また、収支実績においても、計画以上の事業支出があったものの、支出に見合う観覧料収入を確保しており、効率的な運営がされたものと評価できる。</p> <p>②ミュージアムが蓄積してきた豊富な収蔵品を活用した企画展を開催し、企画展示室だけでなくアートギャラリーや映像ホール等でも企画を連動させるなど、ミュージアムが持つ多様な機能を活用しながら広く市民に公開するとともに、作家本人によるサイン会をはじめ、学芸員によるギャラリートークや専門家を招いた講演会等、教育普及事業の実施により作品への理解や関心を深めるための取組を行った。</p> <p>③中原区民祭当日の観覧料を無料にするほか、かわさき市美術展の活性化に向けた様々な取組等、集客事業に偏重することはなく、地域との連携や市民相互の交流の促進、教育普及事業においても指定管理者の創意工夫が発揮されている。</p> <p>以上のことから、平成30年度は適正に指定管理業務が実施されたものと考えます。</p>
---

#### 7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>指導事項</p> <p>○学芸員の入替えが多く経験年数が浅い職員もいるが、労働条件や労働環境の整備などに努め、安定的な運営につながる効果的な組織体制の維持に取り組むこと。</p> <p>要請事項</p> <p>○開館以来継続的に行ってきた地域の歴史・伝統・文化に関する資料の収集・調査研究活動を進展させ、その成果を市民等と共有するなど、ミュージアムが有する豊富な資産の活用に努めること。</p>
--